

プロジェクト7

農の多彩な効用の発揮促進

目的

農業・農村の社会的価値の向上を図るため、農業体験等による心身のリフレッシュや機能回復、食育・地産地消の取組、環境に配慮した農業生産活動による豊かな生態系の保全など、農の持つ多彩な効用の発揮を促進します。

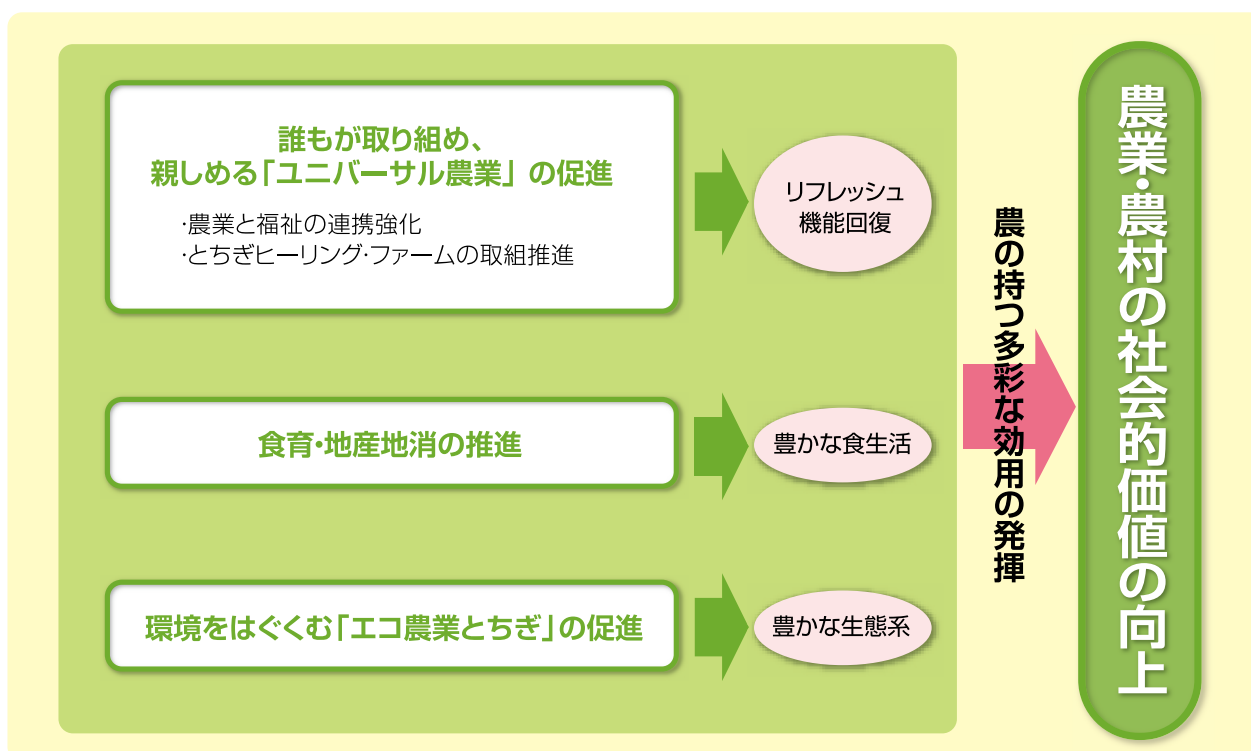
目標

指標	参考値(H22)	現状値(直近値)	目標値(H32)
農業者が障害者等に就労機会を提供した取組数	9件	23件 (H26)	50件
体験農園の利用者数※1	3,859人	4,187人 (H26)	4,450人
学校給食における地場産物活用割合※2	30.1%	36.8% (H27)	50%
生物農薬等の環境に配慮した資材の使用面積	7,001ha (H21)	9,441ha (H26)	12,000ha

※1 体験農園の利用者数：市民農園の契約者数とオーナー制度のオーナー数

※2 学校給食に使用した食品のうち、地場産食材数の割合

取組方策



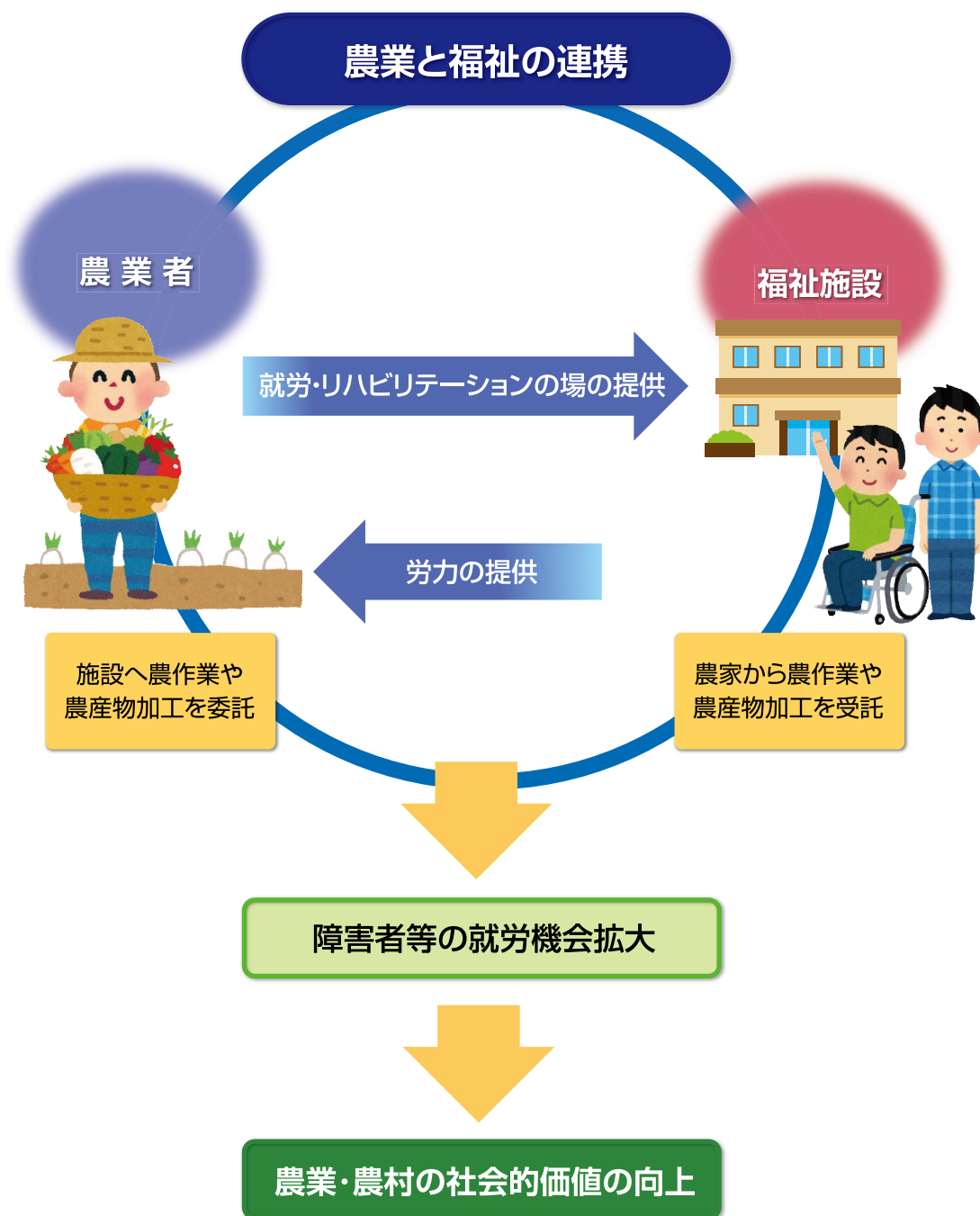
1 誰もが取り組み、親しめる「ユニバーサル農業」の促進

(1) 農業と福祉の連携強化

生産現場でのバリアフリー化や安全確保のための作業環境の改善を支援することにより、障害者等の農業分野における就労機会の拡大を進めます。

(主な取組)

- 農業者と福祉関係者の連携強化を図る研修会等の開催
- 使いやすい道具の購入や生産現場でのスロープ設置等の環境整備への支援 など



(2) とちぎヒーリング・ファームの取組推進

農業体験や交流活動を通して、リフレッシュや仲間づくりなど農の持つ効用が発揮できる農園「とちぎヒーリング・ファーム」の普及を図ります。

(主な取組)

- 「とちぎヒーリング・ファーム」の効果的な活用方法の検討
- 「とちぎヒーリング・ファーム」の整備や取組実践の支援 など



2 食育・地産地消の推進

生産者と消費者との交流や学校・地域・団体等の連携による、食に関する情報発信や農業体験を通して、地域の豊かな農産物への理解と利用拡大を促進します。

(主な取組)

- 地域における食育の実践や情報発信の場づくりの促進
- 学校給食における県産農産物の活用促進 など



生産者との交流による地産地消の推進

3 環境をはぐくむ「エコ農業とちぎ」の促進

環境保全型農業直接支払交付金の活用等により、減農薬・減化学肥料による環境負荷の低減や、地球温暖化防止や生物多様性の維持・向上などにも配慮した「エコ農業とちぎ」の普及拡大を図ります。

(主な取組)

- 農業者等への環境保全型農業直接支払交付金や多面的機能支払交付金の活用推進
- IPM(総合的病害虫・雑草管理)や合理的施肥技術の体系化による化学肥料・化学農薬低減技術の充実
- 公開圃場設置や販路拡大の支援等による有機農業の普及拡大
- エコ農業とちぎ実践者と消費者の交流機会の提供等による理解促進
- 宣言制度を活用したエコ農業とちぎの取組拡大 など



天敵を利用した害虫防除による化学合成農薬の削減

環境負荷の低減



ヒートポンプの使用によるCO2の排出削減

地球温暖化の防止

エコ農業とちぎ

生物多様性の維持・向上



田んぼのまわりに生き物の棲みかとなる水辺(ビオトープ)を設置

安全・安心・信頼性の確保



GAPの実践 (いちごの衛生的なパック詰め)

エコ農業とちぎの実践宣言・応援宣言



お互いを認識し
高めあう関係
づくり



消費者等は応援宣言



宣言書を発行